「寅さん」ポスター

写真上は、映画「男はつらいよ」第 4 作の大きなポスターである。これには、すこし「わけ」がある。ポスターは昨年末、私の卒業生のご家族から送られてきた。卒業生の父親とは、病院で一度だけお会いしたことがある。

私と同じ歳であり親近感があった。13 年ほど前に亡くなられたが、このたびご家族が、「寅さん」ポスターを送ってくださった。本当に嬉しかった。

手もとに「男はつらいよ シリーズ全 48 作品解説」という、小さな「虎の巻」がある。それによると第 4 作は、1970 年 2 月に封切られ、監督は小林俊一。寅さん映画で山田洋次監督以外の作品は、この第 4 作と第 3 作森崎東監督だけである。

「虎の巻」をみて驚いたのは、寅さんは 1970 年の冬と夏に 3 本も封切られていた。第 4 作はポスターのように、栗原小巻がマドンナで、幼稚園の「春子先生」を演じていた。いつもマドンナの顔を見て、映画のストーリーを思い出す。

ポスターを送ってもらった頃、23 年ぶりの寅さん新作「男はつらいよ　お帰り寅さん」の全国ロードショーが始まった。すぐにでも行きたかったが、なかなか時間がとれず、最近になりやっと鑑賞できた。鑑賞した感想は、つい感傷的になってしまうので、すこし時間をおいて、じっくり語ることにしよう。

写真は映画を小路幸也が小説化した本(講談社、2019 年 12 月)の表紙だ。この小説を読んで、映画を振り返りたい。

ここでは、本の最初に書かれている寅さん「口上」を紹介しておく。

わたくし、生まれも育ちも葛飾柴又です。
帝釈天で産湯をつかい、姓は車、名は寅次郎。
人呼んでフーテンの寅と発します。
とかく西に行きましても東に行きましても
土地土地のお兄貴さんお姐さんにご厄介かけがちなる若造です。
以後見苦しき面体、お見知りおかれまして、
今日こう万端ひきたってよろしくおたの申します

(2020 年 1 月 24 日)